

1. 日米株式と円/ドルの推移



(注)チャートは過去1年

	単位	2019/12/31	2020/5/31	2020/6/19	過去3年高値		過去3年安値	
		(前年末)	(前月末)	(前週末)	水準	日付	水準	日付
日経平均	円	23,656.62	21,877.89	22,478.79	24,448.07	2018/10/2	16,358.19	2020/3/19
NYダウ	ドル	28,538.44	25,383.11	25,871.46	29,568.57	2020/2/12	18,213.65	2020/3/23
円/ドル	円	108.61	107.83	106.87	114.73	2017/11/6	101.19	2020/3/9

過去3年高値・安値はザラ場ベース / 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

2. 日本株市場 先週の振り返り

～ 経済活動の正常化期待が続く中、米国の追加財政政策への思惑などから上昇～

先週の日本株市場は、週間ベースで日経平均が+173.31円(+0.78%)、TOPIXが+12.12ポイント(+0.77%)となり、経済活動の正常化期待が続く中、米国の追加財政政策への思惑などから上昇しました。業種別(東証33業種)で見ると、海運業、精密機器、パルプ・紙などの20業種が上昇した一方、不動産業、空運業、陸運業などの13業種が下落しました。週初の15日は、米国の一部の州や中国北京市における新型コロナウイルスの新規感染者数の増加を受け、感染拡大第2波への懸念が高まったことなどから、下落して始まりました。しかし16日には、①FRB(米連邦準備理事会)が社債購入を開始すると表明したこと、②米トランプ政権が景気刺激を意図した1兆ドル規模のインフラ投資策を検討していると報じられたこと、③日銀が金融政策決定会合において企業向け資金繰り支援策を拡大したことなどを好感し、大きく反発しました。その後は、新型コロナウイルスの感染拡大第2波への懸念が下落要因となる一方、日銀のETF(指数連動型上場投資信託受益権)買入れや、19日から都道府県をまたぐ移動制限が全面解除となるなど、根強い経済活動の正常化期待が下支えに働き、横ばい圏での推移が続きました。

3. 今週の主な予定

日程	曜日	国・地域	項目		前回
6月22日	Mon	欧州	ユーロ圏消費者信頼感指数	6月	▲18.8
		米国	中古住宅販売件数	5月	4,330千件
6月23日	Tue	欧州	ユーロ圏製造業PMI(購買担当者景気指数)	6月	39.4
		欧州	ユーロ圏サービス業PMI	6月	30.5
		米国	新築住宅販売件数	5月	623千件
6月24日	Wed	国際	IMF世界経済見通し(WEO)公表		
		ドイツ	IFO企業景況感指数	6月	79.5
6月25日	Thu	米国	耐久財受注(前月比)	5月	▲17.7%

※ 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

4. 日本株市場 今週の見通し

～ 新型コロナウイルスの感染拡大第2波などが懸念されるも、主要中央銀行の金融緩和策などに支えられ、一進一退の展開～

今週の日本株市場は、新型コロナウイルスの感染拡大第2波などが懸念されるも、主要中央銀行の金融緩和策に支えられ、一進一退の展開が続くとみられています。

①先週後半に米国の1日当たりの新型コロナウイルス新規感染者数が3万人を超え、感染拡大第2波への懸念が高まっていること、②米大統領選挙を巡り、トランプ大統領の支持率が低下し民主党バイデン候補が優勢と伝わる中、米国の政策不透明感が意識されやすいこと、③中国政府が来週前半にも『香港国家安全法』を制定すると予想されて米中関係の更なる悪化懸念があることなどが、株価の上値抑制に働くとみられています。一方、①主要中央銀行の金融緩和策により大規模な流動性が供給されていること、②行動制限の緩和による経済活動の正常化期待が根強いことなどが株価を下支えするとみられており、これらの材料に左右されつつ一進一退の展開が続くとみられています。

その他の注目材料として、米国では22日の中古住宅販売件数、25日の耐久財受注、欧州では、23日のユーロ圏製造業・サービス業PMI、ドイツでは24日のIFO企業景況感指数、国際では24日のIMF世界経済見通しなどが挙げられます。



朝日ライフ アセットマネジメント株式会社
Asahi Life Asset Management Co., Ltd.
URL: <http://www.alamco.co.jp>

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第301号
加入協会: 一般社団法人投資信託協会/一般社団法人日本投資顧問業協会